

環境創造型農業を推進!

ひょうごで有機農業

就農ガイドブック



但馬



播磨



丹波



摂津



淡路



兵庫県

有機農業(オーガニック)とは

有機農業とは、土が本来持つ力を生かし、そこで生きる生き物と共生しつつ、自然との調和を大切にしながら行う環境にやさしい農法のことです。「有機農業の推進に関する法律(2006年策定)」では、次のように定義されています。

- ①化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
- ②遺伝子組換え技術を利用しない
- ③農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する



有機JASとは

「有機JAS」とは、JAS法(日本農林規格)によって定められた有機農産物の表示をするための有機認証制度です。2年以上化学肥料や化学合成農薬を使用していないほ場で、有機農業の定義に基づいた生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証します。認証された事業者は、「有機JASマーク」を使用し、有機農産物に「有機〇〇」等と表示することができます。



※兵庫県内には「NPO法人兵庫県有機農業研究会HOAS」と「(一社)オーガニック認証センター」の2つの認証機関があります。

国は有機農業の取組拡大を推進しています

農林水産省では2021年、環境に配慮しながら食料・農林水産業の生産力を上げ、持続可能性を高めるために「みどりの食料システム戦略」を策定。有機農業が生物多様性の保全や地球温暖化防止に寄与することから、オーガニック市場の拡大を推進しています。

〈推進および普及の目標〉

- 有機農業の取組面積 23.5千ha(2017年)→**63千ha**(2030年)
※さらに、2050年までに取組面積を100万haに拡大
- 有機農業者数 11.8千人(2009年)→**36千人**(2030年)
- 有機食品の国産シェア 60%(2017年)→**84%**(2030年)
- 有機食品を週1回以上利用する者の割合 17.5%(2017年)→**25%**(2030年)

兵庫県における有機農業の取組

いち早く、環境創造型農業を推進しています

兵庫県では1993年に県独自の有機農業認証制度を創設し、環境創造型農業を推進しています。2001年に有機JAS認証制度が始まる前からの取組とともに、2008年には兵庫県環境創造型農業推進計画の策定により推進し、着実に拡大してきました。その結果、耕地面積に占める有機農業の割合は1.4%(2020年度)と全国より高く、2030年に向けて「有機農業の拡大」「担い手の育成」「流通・消費の出口対策」の強化を進めています。

兵庫県内取組面積の推移	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
有機農業取組面積 (兵庫県農業改良課調べ)	986ha	1,031ha	1,060ha	1,081ha
うち有機JAS取得面積 (2023年4月農林水産省公表値)	160ha	198ha	222ha	—

国と兵庫県の有機農業の推進目標

		2020年	2030年	2050年
国	有機農業面積	2.52万ha	6.3万ha	100万ha
	耕地面積に占める有機農業割合	0.6%	1.5%	25%
兵庫県	有機農業面積	1,031ha	1,850ha	—
	耕地面積に占める有機農業割合	1.4%	2.7%	—

国/みどりの食料システム戦略の目標設定 県/ひょうご農林水産ビジョン2030の目標



全国最多! 9市町が「オーガニックビレッジ」を推進

「みどりの食料システム戦略」では、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地づくり(オーガニックビレッジ)を推進しています。兵庫県では、2022年度から全国最多となる9市町が「オーガニックビレッジ」を宣言。農業者・事業者・住民を巻き込み、農作物の生産から消費まで一貫した地域ぐるみの有機農業の産地づくりを積極的に進めています。



(出典/農林水産省「有機農業産地づくり推進事業」)

【兵庫県内のオーガニックビレッジ取組市町】

開始年度	取組市町
2022	豊岡市、養父市、丹波篠山市、丹波市、淡路市
2023	神戸市、加東市、上郡町、朝来市



丹波市



豊岡市

持続可能な 都市型農業と 農業経営の 心構えを学ぶ

親方に学んだ
就農者にお聞きします

独立就農

親方

やはし こうじ
八橋 幸嗣さん

いけがみ よしたか
池上 義貴さん

就農のきっかけ

神戸市出身の八橋さんは、会員の傍ら市民農園で家庭菜園を始めたことで農業に興味を持ち、2017年に耕作放棄地を貸農園として事業を行う農業プラットフォーム企業の菜園アドバイザーに転職しました。農地の現状を見聞きする中、農薬や化学肥料を使用しない無農薬野菜を作りたいとの思いが強くなり、就農を決意しました。

就農準備

2018年4月からは淡路島の自然栽培農家で農業を本格的に学び始め、同時に就農に向け神戸市西区の自宅を起点に「農地探し」をスタート。半年かけて自らの足で各地を訪ね歩き、同市西区内の耕作放棄地を見つけ、41アールを再生して2020年7月に「くさとね やはし農園」を立ち上げました。同年10月、神戸農業改良普及センターの紹介で「池上農園」に研修を申し込みました。

研修の成果や工夫した点など

研修期間は約半年間でしたが、池上農園の炭を使った土づくりや栽培方法を学ぶことができました。また、これから職業として農業を続けていくために自分が何をしなければならぬか、有機農業・慣行農業の区別なく知識を得ることの大切さを学びました。これまでは、自然農法にこだわりがありましたが、研修を通じて農業の捉え方が変わり、自分の進む道筋が見えてきました。

研修後の就農について

研修後は「くさとね やはし農園」を本格稼働させるべく、畑の整地、土づくりを行い、2021年3月から第一期作付けを開始。同年11月には有機JAS認証を取得。葉物野菜、根菜類を主体に旬の有機野菜を近隣の温浴施設やホームセンターなどに出荷するほか、神戸市中央区の自身と共同経営者が運営するシェアキッチン&カフェで販売しています。



就農を目指す後輩へのアドバイス

私は親方のアドバイスで、農業に対するものの見方・捉え方が変わりました。就農するためには、自分だけで考えるのではなく、親方農家の研修で学ぶことがとても重要です。都市型農業ならではの地域とのかかわり方や販路開拓なども学べ、親方と同じ地域で就農できたので現在も交流を続けています。

就農準備・研修(2年間) → 就農開始 → 就農後研修(半年間)※

2017年、会社員から菜園アドバイザーに転職。2018年、淡路島の自然栽培農家で学びながら神戸で農地探し。

2020年7月、神戸市西区に「くさとね やはし農園」を立ち上げ。

2020年10月～2021年3月、池上農園で研修を受けながら自身の農園を本格稼働。現在に至る。

※ 地域の担い手定着応援事業

池上農園の有機農業について

消費地に近く、消費者の顔が見える都市型農業の利点を生かし、高品質な野菜を“必要とされるだけ作っていく”経営方針を掲げています。2002年に有機JAS認証を取得。炭やもみ殻堆肥、魚粉、サンゴなどを混ぜ込んだ土づくりとともに、独自の「池上式スチーム農法」で葉物野菜や根菜・果菜類を主にハウスで栽培しています。同農法は、蒸気による土壌表層の消毒作用に加え、雑草をスチーム処理して圃場の堆肥として活用する手法です。余分な堆肥を投入しなくても有用微生物が活性化して、団粒構造で連作障害のない土壌を生み出しています。

高い栄養価で受賞歴を重ねる

科学的分析による農作物の栄養価コンテスト「オーガニック・エコ・フェスタ」で、2016年から水菜やツルムラサキ、小カブなどが最優秀賞を受賞。2023年4月からは定額制の「野菜定期便」を開始し、消費者との直販に力を入れています。また、地元小学生や近隣住民を農園に迎え入れ、農作業体験を通じて有機農業への理解を深める交流も行っています。



スチーム機

研修生の受け入れや指導方針について

研修は、月間約18時間のペースで6カ月、1年といった形で受け入れています。土づくりや栽培管理、販路開拓など、池上さんが普段行っている農業経営を実作業を通じて指導。研修にあたっては、就農に対する思いなどを詳しくヒアリングし、指導する内容を変えています。経験の有無に合わせ基礎もしくは実践指導から始め、就農後の経営や農業に対する心構えもアドバイス。「就農するならば有機農業という人も多いですが、慣行農業に比べ有機農業が優れている訳ではありません。それぞれの特性を理解することが農業者として必ず役に立ちます」。現在まで約10名の研修生を受け入れ、約半数が独立就農しています。

炭育ち 池上農園

神戸市西区玉津町出合



HP

経営内容・品目

- 栽培規模 約110a
- 栽培品目 菊菜や水菜、小松菜、ほうれん草やケールなど多量の葉物野菜、ビーツ、カブなどの根菜類、トマトやメロン、バターナッツなどの果菜類
- 出荷先

JAを通じて兵庫県内のイオン各店、JA直売所、百貨店などで販売するほか、大阪や神戸などのレストランへ直接出荷、自社Webショップでも販売



| KOBE |



親方に学んだ
就農者に
お聞きします

40年におよぶ
有機農業のノウハウを
惜しむことなく指導

親方

独立就農

ゆお ちさみ

祐尾 智紗美さん

うしお まさみち

牛尾 真道さん

就農のきっかけ

約10年間、世界を放浪した経験を持つ祐尾さん。23歳の時にオーストラリアで出会った野菜農家で働いたことから農業への思いが芽生えます。現地でもよく開かれるファーマーズマーケットで、手がけた野菜や果物を誇らしげに語る有機農家さんに触れる中、人の暮らしや食の本当の豊かさを実感し、農業を通じて「豊かな暮らしのお裾分けがしたい」と就農を決意しました。

就農準備

「農業で生きていこう」と決めた祐尾さんは2018年、多可郡多可町で農業を営む実家に戻ります。海外の体験から有機農業を本格的に学びたいと考え、「有機農業参入促進協議会」などのホームページを通じて、通勤にも便利な多可町と接する市川町の牛尾農場へ研修を申し込みました。

研修の成果や工夫した点など

3年間通いながら、牛尾農場が手がける土づくりや多品目有機野菜の栽培方法を学びました。「親方に付いて、さまざまな作物栽培の実作業をとにかく何から何までやりました」と振り返る祐尾さんは、復習のために多可町に小さな畑を借り、白菜やカリフラワー、ブロッコリーなどを作り始めます。自分でやってみることでわからないことが明確になり、研修で具体的な指導を仰ぐことができました。

研修後の就農について

牛尾農場での3年間の研修と同時に、三重県の有機農家で堆肥づくりのセミナーを受講するなど実習を重ね、2022年4月、農業を営む実家の近隣に「農場なつめやし」を立ち上げ独立。牛尾さんに学んだ太ネギを自家採種して育て、なつめやしの「ヒッピー太ネギ」と名付けるなど、現在では90アールの畑で季節ごとに異なる60種類以上の野菜を栽培。「新鮮な野菜をできるだけ地域の人に食べてもらいたい」と、地域の人々に向けた家庭用の野菜セットを中心に、多可町内の直売所出荷や飲食店との取引にも力を入れています。有機ならではの味わい深い野菜は、食べた人の口コミが広がり、地域の中で着実にファンを増やしています。



就農を目指す後輩へのアドバイス

就農の気持ちが固まったらまず自分に合った研修先を見つけてください。私は、親方のおかげで、さまざまな品目の有機栽培の方法を学べました。作りすぎて失敗したこともありましたが、「とりあえずやってみよう!」の気持ちで経験を重ねることが大切だと思います。

就農準備

2018年、インターネット等で研修先を探し、直接牛尾農場に申込み、研修スタート。

研修(3年間)※

2018年~2021年 週4~6日のペースで通いながら、自分の畑で復習。

就農開始

2022年4月「農場なつめやし」を立ち上げ独立。現在に至る。

※ 農業次世代人材投資事業(準備型)2年間

牛尾農場の有機農業について

農業、化学肥料は一切使用せず、露地で主に自家製の鶏糞堆肥を使って育てた野菜は、旬の時期はもちろん、積雪が少ない地域の特性を生かし、年間を通じて収穫・出荷できる工夫をしています。甘味があって柔らかな「市川太ナス」や、岩津ネギをルーツとする「マチコネギ」など、40年前から有機農業に取り組む父から経営を引き継ぎ、自家採種を続けている品種は地元の特産品となっています。



地域ぐるみで“有機の里”へ

2016年には牛尾さんと新規就農者や地域住民、行政、金融機関などが一体となって「笠形地域づくり協議会」を結成。「笠形オーガニックファーマーズ」の愛称で、有機農業体験スクールの実施や学校給食への食材提供、小学生の収穫体験など、“有機の里”として地域活性化を進めています。



研修指導方針や受け入れについて

多品目栽培・直売型で有機農業の生産から販売まですべてを、“自分でやってみる”ことをモットーに実作業の研修を行います。農業を志す気持ちのある人なら、年齢・経験問わず幅広く門戸を開いています。私が持ち合わせている知識、技術は惜しむことなく教えます。

1~3年間、週1回半日、月1回終日など、通勤可能な人なら都合に合わせて期間や日程が相談できます。「農業インターンシップ研修」を利用した短期・中期の研修も可能です。また、フルタイム勤務スタッフの採用も行っています。

旬の野菜と平飼卵 牛尾農場

神崎郡市川町上牛尾



HP



経営内容・品目

●栽培規模 6ha、採卵鶏約700羽

●栽培品目

水稲は「ヤマヒカリ」を主体に年間約5t
葉物野菜、根菜類、果菜類など約70品目を栽培

●出荷先

季節の野菜セットや平飼いの卵、味噌、玄米餅などの加工品を定期便でネット販売するほか、関東・関西の飲食店十数軒に出荷

| ICHIKAWA |

親方に学んだ
就農者に
お聞きします

独立就農

たちわき しゅうへい
立脇 収平さん

就農のきっかけ

豊岡市出身の立脇さんは、中学生の体験学習「トライやる・ウィーク」でナカツカサファームで農業を体験したことが縁のはじまりになります。その後、度々アルバイトでナカツカサファームを手伝うようになり、中務さんが取り組む有機農業の素晴らしさを知りました。

就農準備

大学を卒業し就職活動を始めた時、中務さんと進路を相談する中で農業の道に進むことを決意。豊岡市が行う新規就農者を養成する「豊岡農業スクール」の2016年度研修生として、同年9月からスクールの認定指導者である中務さんの元で3年間の研修がスタートしました。

研修の成果や工夫した点など

市内の実家からナカツカサファームに通う研修は、週40時間(1日8時間×5日間)のペース。親方からは、鶏糞や糞がら、大豆かすなどを攪拌・発酵させた堆肥づくりや炭素循環農法、太陽熱処理など、有機農業にかかわる農作業を実践を通じて学びました。親方のところでは、露地とハウスで40品目もの野菜を栽培しています。これだけ多品目の栽培方法を学べたことは、将来の独立就農に向けて自分がちゃんと作れるのかを知ることができてとても良かったです。

研修後の就農について

研修を終えた2019年、出石町内の遊休農地を借り受け整地し、「たちわきゆとり農園」を立ち上げ独立。葉物やニンジンなどの野菜を主体に栽培し、2020年7月には有機JAS認証を取得しました。同年、豊岡農業スクールで学んだ卒業生と共に若手生産者グループ「豊岡オーガニックワークス」を結成。統一ブランドで有機ニンジンを栽培し、現在はメンバー6名で約50tの出荷量に成長、イオンアグリや学校給食などへ販路を拡大しています。



就農を目指す後輩へのアドバイス

有機農業の確かな技術を身に付けるためにも、自分が就農を予定しているその地域で研修先を探してください。作物には地域に合わせた育て方があるからです。また、農地は長年付き合っていくものなので、焦らずに、条件の良い土地を時間をかけて見つけることをおすすめします。

就農準備

研修(3年間)※

就農開始

2016年、縁のあった中務さんに進路を相談。豊岡農業スクール受講を決意。

2016年、研修生としてナカツカサファームで実践研修。

2019年4月「たちわきゆとり農園」を立ち上げ独立。2020年7月有機JAS認証取得。現在に至る。

※ 豊岡農業スクール開講事業

農業スクールを通じて
有機の良さを
若手と共にアピール

親方

なかつかさ よしつぐ
中務 喜紹さん

ナカツカサファームの有機農業について

娘さんのアレルギーがきっかけで、有機農業を目指し20年前に京都から豊岡に移住、就農。約8haのほ場で小麦やソバ、野菜約40品目を栽培しています。梅雨と冬場に雨が降り多い但馬地域では小麦栽培が不利と言われる中、小麦の有機栽培に挑戦し、パン作りに適した強力粉用の「ゆきちから」や「鴻巣25号」などを生産。全粒粉パンなど、素材にこだわるベーカリー店から熱烈な支持を得ています。

学校給食に有機野菜を

有機農業の産地づくりを推進する豊岡市では、学校給食に有機農産物を導入する取組を進めています。コメに続いて、2023年2月8日「有機の日」には、中務さんや立脇さんが小松菜、ダイコン、ニンジンなど有機野菜を提供。「環境にも、体にも優しい有機の良さを多くの人に知ってもらいたいですね。給食がすべて有機野菜になるように活動していきたいと思っています」。



研修生の受け入れや指導方針について

豊岡市が環境創造型農業の担い手を育成するため、2013年度に開校した「豊岡農業スクール」の研修生を受け入れています。スクールは1年(更新により最大2年)の研修期間になっていますが、短・中期の「農業インターンシップ」も可能です。20年間、試行錯誤を繰り返しながら得た有機農業の技術を、一人でも多くの農業を志す若手に伝えていきたいですね。



ナカツカサファーム

豊岡市出石町口小野



Facebook



Instagram

経営内容・品目

- 栽培規模 約8ha
- 栽培品目 小麦、大麦、ソバ、葉物野菜・根菜・果菜類など約40品目
- 出荷先 小麦は姫路・京都・大阪・奈良のベーカリー店約30軒に直販。ソバは「出石皿そば協同組合」へ出荷。野菜類は地元スーパーなどで販売



| TOYOOKA |

有機の里で
まじめに、まっすぐに
作物と向き合う

親方に学んだ
就農者にお聞きします

雇用就農

親方

こばやし ゆめが
小林 夢芽さん

たかみ やすひこ
高見 康彦さん

就農のきっかけ

尼崎市出身の小林さんは、普通科高校から兵庫県立農業大学校に進学。学校のカリキュラムの大半は慣行農業でしたが、授業の中で触れられた有機農業の存在を知り、「これで本当に野菜ができるの?」と衝撃を受けたといいます。

就農準備

高校生の時、食べることが大好きだった父が味覚障害を発症し、ショックを受けた小林さんは、その頃の父がお米の甘みが分かるとおいしそうに食べている姿を見て、食味や人の健康を意識した栽培をしてみたいと思いました。有機農業に関心を持った小林さんは農大の卒論のテーマに「ヘアリーベッチ(緑肥)を使った稲作を設定。就職先も「有機農業をしている農業法人」に的を絞りました。

雇用就農でスタート

2018年、農大2年生のとき、有機農業が盛んな丹波市役所に問い合わせたことがきっかけで、就職活動の第一歩として「丹波たかみ農場」を訪問します。法人化して人材を求めている高見さんとその場で話がまわり、卒業と同時に就職が決定しました。

2019年4月から、新入社員として就農。親方をはじめ先輩たちに学びながら有機農業のプロを目指し日々の努力を重ねています。「一つの仕事に対して、いくつもの作業の手順や方法があり、技術レベルを上げるように頑張っています。」「丹波大空の会(若手生産者)」「丹波根っ子の会(女性生産者)」など、さまざまな組織に参加し、いろいろな悩みを相談できる点も良かったそうです。

就農を目指す後輩へのアドバイス

自分のやりたいことを明確にして親方の門を叩いてください。農業法人は会社といえども、親方の家族経営の中に飛び込むことになります。自分の意見や分からないことははっきり伝え、相手の話や思いを理解するコミュニケーション力が大切だと思います。



丹波大空の会

丹波たかみ農場の有機農業について

地域ぐるみで有機農業に取り組み、「有機の里」として知られる丹波市市島町で、親元就農・二代目として就農しました。科学的に土壌分析・施肥設計を行う有機農法「BLOF(プロフ)理論」を取り入れた土づくりで、安全で病害に強く、高い品質の米(コシヒカリ)やニンジン、豆類を栽培しています。



地域の生産者連携を推進

県内で初となる「オーガニックビレッジ宣言」を発表した丹波市では、15年の歴史を持つ「丹波ひかみ有機米研究会」をはじめ、「丹波有機農業研究会」や「丹波人参倶楽部」、「畑家族」といった有機農業の生産者団体が多く活動しているのも大きな特徴です。「丹波ひかみ有機米研究会」の発足メンバーである高見さんは十数団体に所属。「有機農家一人ひとりの力は小さくても、グループになれば技術の向上や大きな商談につながり、販路も拡大します」と、地域の生産者連携を推進しています。



畑家族

研修生の受け入れや指導方針について

「就農の決意があれば親元が農家でなくても、丹波市への1ターンでもかまいません」。たかみ農場では2010年頃から、1年研修で5名を受け入れ、独立就農しています。また、「農業インターンシップ研修」では、これまで3名の研修生を受け入れました。「研修前には農業の基本知識は学んでほしいと思います。農業に頼らず、良い作物を育てるには、植物や土壌の知識が特に重要です。さらに、有機農業を志望するのであれば、農家の研修で実習を重ね、基本的な技術と販路開拓の手法をしっかりと学ぶことが必要ですね」。

株式会社 丹波たかみ農場

丹波市市島町与戸



HP

経営内容・品目

- 栽培規模 17.3ha
- 栽培品目 水稻(JAS有機コシヒカリ、特裁コシヒカリ)、小豆、黒大豆、ニンジン、粟
- 加工品 人参ジュース、煮豆、黒豆珈琲など
- 出荷先 「JA丹波ひかみ」や道の駅、米穀の小売・卸業者に出荷するほか、自社WEBショップで販売



| TAMBA |

※ 農業次世代人材投資事業(準備型)1年間

就農準備

農業に興味を持ち、農業大学校への進学を決める。

研修(2年間)※

2017年4月、兵庫県立農業大学校に入学し、有機農業を知る。2018年、農業法人への就職活動開始。「丹波たかみ農場」を会社訪問し、採用決定。

雇用就農

2019年4月、同社に入社し、丹波市に移住。現在に至る。

親方に学んだ
就農者に
お聞きします

独立就農

みさき さき
三崎 咲さん

就農のきっかけ

東京農業大学を卒業後、スイスの農業研修で有畜複合農業を学んだことから就農への思いを募らせていた頃、2016年に東京で開催された「ふるさと回帰フェア」に参加したことがきっかけで、2017年に食品開発の仕事をしていた夫の雄太さんとともに洲本市に移住しました。

就農準備

雄太さんが洲本市の「地域おこし協力隊」として働きながら、咲さんは「地域で循環する有畜複合農業」を目指し、2017年4月、移住の際の面談で紹介を受けた「淡路島西洋野菜園」と「花岡農恵園」で露地野菜栽培を学ぶことを決めました。養鶏については、市川町の「牛尾農場」まで通いながら研修をスタートしました。

研修の成果や工夫した点など

柴山さんからは、これまで全く知らなかった西洋野菜の栽培方法や大地(自然)の力を生かすことを学びました。研修中はいつも時間が無くなり、いかに要領よく作業を行うかを考えさせられましたね。研修は、週2回のペースで「淡路島西洋野菜園」で土づくりと多品目西洋野菜、「花岡農恵園」で主にタマネギ栽培、月2回は「牛尾農場」で養鶏と鶏糞の作り方や使い方を学びました。同時期に3カ所は大変でしたが充実した1年間でした。



研修後の就農について

研修中に洲本市五色町の中山間地で見つけた古民家と耕作放棄地を購入した三崎さん夫婦は、2018年4月、「島ノ環(わ)ファーム」を立ち上げ独立しました。「養鶏と無農薬栽培で小さく地域で循環する有畜複合農業」をコンセプトに、平飼養鶏の卵と無農薬栽培のタマネギなどを出荷。イタリア原産のトロペアロツサルンガ(赤タマネギ)は柴山さんが買い取りも行っています。販売先は島内外の飲食店・小売店と自社WEBショップの個人顧客がほぼ半々。若手就農者が中心となって、淡路島のオーガニック(有機農業)文化を育てようと取り組む販売イベント「島の食卓」に参加し、地元のファンづくりにも注力しています。



就農を目指す後輩へのアドバイス

まず、目指す就農ビジョンを明確にすること。柴山さんから学んだ「誰に何を売りたいのか」という視点も就農計画を立てる上で必要です。また、地域の農業を知ることがとても大切です。地域なりの機械の使い方や土質を理解しないとつまずくことがあります。農業は一人ではできないので、困った時の人脈作りのためにも、就農を予定する地域をよく知ることをおすすめします。

就農準備

2016年10月、東京開催「ふるさと回帰フェア」で淡路島での就農を決意。2017年1月、淡路島へ夫婦で移住。

研修(1年間)

2017年4月~2018年3月まで、農園3カ所で研修。

就農開始

2018年4月、「島ノ環ファーム」を立ち上げ独立。現在に至る。

本気でやりたい人を
どんどん受け入れて
応援していきたい

親方

しばやま あつし
柴山 厚志さん

淡路島西洋野菜園の有機農業について

神戸市から移住し、2010年10月に「淡路島西洋野菜園」を開業。夫婦でレストラン向けに西洋野菜を中心に露地栽培を行っています。栽培のモットーは、「自然に逆らわず野菜自身が持つ力を信じて、たくましく生命力にあふれる野菜本来の味を追求すること」。アーティチョークやフェネル、ブンラレラなど、約150種類にもおよぶ多品目露地栽培の特徴は緑肥と微生物の発酵による力を利用した土づくり。さらに自家採種を繰り返すことで、風土にしっかり根を張る力強い味わいの野菜に育っています。**必要とする人へ必要な野菜を**

大切にしているのは、シェフとの信頼関係づくりと持続可能な農業を次世代へ継承すること。調理する側と栽培する側の思いを共有するため、各地のレストランを訪ね、シェフを畑に招いたりする交流を重ねています。求めに応じて作付する「柴山さんの野菜」は、シェフとの強い信頼関係で結ばれています。

研修指導方針や受け入れについて

農業で生計を立てていくという強い覚悟を持って取り組む人を歓迎します。淡路島で就農することにはこだわらず、シェフとの交流の場も体験してもらいながら「誰に何を売りたいのか」を一緒に考える指導を行っています。本気で有機農業・自然栽培をやりたいという人を応援していきたいですね。研修では季節ごとに変わる作物の栽培や作業を1年間で基本的に実地指導。2015年から17名の研修生を受け入れ、島内外で9名が新規就農、農業大学に1名進学しています。短期・中期の農業インターンシップ研修も可能です。



淡路島西洋野菜園

南あわじ市三條



HP

経営内容・品目

- 栽培規模 80.1a
- 栽培品目 西洋野菜を中心に約50品目150種
- 加工品 チコリの根を加工した「チコリコーヒー」や野菜パウダー、ハーブティー、麦茶など
- 出荷先 神戸市をはじめ県内各地、大阪、京都、名古屋、東京などのレストランやホテル21店と直接出荷契約。個人向け野菜セットや加工品を自社WEBショップで販売



| MINAMIAWAJI |



農業をやりたい そんなあなたを応援します!



就職希望者

兵庫県で農業がしたいけれど...

- ・どこでやるのがいいかな?
- ・地域の人に受入れてもらえるかな?
- ・どんな作物をつくったらいいだろう?
- ・農地や機械はどうしよう?
- ・子育てなど生活環境はどうなってるの?

ここで着が付き! 相談前の準備を紹介

- ・HP等で就農事例や経営試算等の情報収集
- ・自宅近隣の家庭菜園や貸農園での農業体験

就農支援センター相談の流れ

- 相談カード入力**
HPから入力できます。相談開始(オンラインも可)
- 就農相談会・就農バスツアーに参加**
- 短期体験(インターンシップ研修)**
農業法人等で7日間の体験。数カ所でも実施することも可能。
- 自分に合った農業スタイルを選ぶ**
【本格的な独立就農】or【農業法人等で雇用就農】
- スタイルに応じた研修(1~2年)**
- 就農**



応援チームが橋渡し!



地域ぐるみで皆さんを支えます!

地域就農・定着応援プラン

プランにはこんな情報が

- こんな地域の魅力があります
- こんな人に来てほしい
- 就農サポートメニュー
技術・経営ノウハウ習得・農地あっせん 等
- 生活サポートメニュー
地域へのとけこみ支援・空家情報・子育て支援 等



体験(インターンシップ) 独立就農、雇用就農情報



空家情報、子育て支援等

●●● 新規就農者受入れ希望地域 ●●●



兵庫県HP就農・定着応援プラン 一覧

マイナビ農業【兵庫県】「ひょうごde就農」



地域単位の応援チーム

市町単位の応援チーム



有機農業Q&A



Q: 有機農業は就農後、すぐに経営が安定するってホント?

A: 土づくりなど、有機農業特有の栽培技術は慣行農業よりハードルが高いと言えます。
少なくとも1年以上の有機農業の研修、または雇用で確実に技術を学ぶことが必要です。研修機関や親方農家の情報は、ひょうご就農支援センターや県内の地域就農支援センターで提供しています。

Q: 有機農産物は高い価格で販売できるってホント?

A: 有機農産物の実際の価格相場は慣行農産物の1.2倍~1.5倍とされていますが、有機JAS認証を取得する場合は費用がかかります。
そのため、一定量の収量を確保しないと経営が成り立たない場合があります。直売所・量販店の専用売り場や有機農業を実践している先輩農家から情報収集を行うことが重要です。



Q: 自然が相手の有機農業の冬場の計画は?

A: 有機農業は露地栽培が主体の場合でも、出荷先(顧客)からは年間通じて出荷(購入)の要請があります。露地でも冬場に出荷できるものを栽培しているところも多く、ハウス等の施設栽培で安定出荷につながることも期待できます。就農の際には、自己資金(出資)の準備と合わせて、経営計画の必要性を検討してください。



県内で有機農業を学べる研修機関を紹介します

●**兵庫県農生活センター**(指定管理者:(公社)ひょうご農林機構)
神戸市西区神出町小束野30-17 TEL.078-965-2047

<研修期間>
1年間(8月開講、全日制)

<概要>
新たに農業経営を目指す人を対象に、就農に必要な総合的な知識や技術を習得するための研修を行っています。有機栽培・果菜類周年栽培・無加温施設栽培・いちご高設栽培の4コースがあります。有機栽培コースでは各コース共通の座学・実習と、ビニールハウス、露地を使った無農薬・無化学肥料による野菜類の栽培を学びます。

<募集人数> 5名(有機栽培コース)※個別面接により選考
<受講料> 18万円
※別途、野菜栽培にかかる生産資材費等が必要



●**丹波市立 農(みのり)の学校**(指定管理者:(株)マイファーム)
丹波市市島町上田1134 TEL.0795-85-2800

<研修期間>
1年間(4月開講、全日制)

<概要>
2019年度に開校した全日制オーガニックスクールです。農業栽培の技術(有機無農薬栽培や丹波市の特産物栽培)、農業経営、農村文化を学び、自ら実践をすることができます。里山の資源を生かした有機農業の技術、最先端の農業経営を学ぶカリキュラムを提供しています。

<募集人員> 20名 ※願書等により選考
<受講料> 67万円



お問い合わせ

兵庫県農林水産部 農業改良課

TEL.078-362-9210(直通) Email. nogyokairyo@pref.hyogo.lg.jp

ひょうご就農支援センター TEL.078-391-1222



お問い合わせは
就農支援センターHPから